

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

急速に変化する社会状況の中を生きていくためには、生涯にわたって自ら学んでいくことが必要となる。本市では、1人1台端末とクラウド環境を整備することにより、児童生徒の情報活用能力を育成する。全てのこどもたちの可能性を引き出すために、児童生徒が個々のペースに応じ、自分に最適な学びを進める「個別最適な学び」と児童生徒同士で考えを共有したりする「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことを目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期では、1人1台端末(16,000台)の整備や通信ネットワーク整備を行い、ICT支援員の訪問支援等により各学校にて日常的に授業で利活用を進めることができた。しかし、学校間や教職員によって利活用の差があるため、引き続き公開授業や研修会等でリーディングDX指定校等先進校の実践事例を共有し、全校で実践が推進されるよう支援を継続する必要がある。

また、端末の故障台数増加についても課題であり、第2期で早急に更新を行い、予備機を十分確保することにより学びを止めないよう整備を行う必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

学習者用端末、指導者用端末と大型提示装置等を活用し、教材等の配布のほか画面共有を行うことにより、個々の児童生徒の学びをリアルタイムで共有することが可能であり、児童生徒は共同編集をしたり、他者参照をしたりしながら主体的に学びを深められる。「個別最適な学び」と「協働的な学び」による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていく。

また、不登校児童生徒や教育相談、外国人児童生徒の対応、特別支援学級等でも積極的に活用し、学びの保障を確保していく。

このような学習を推進するため、端末の更新整備により、1人1台端末環境を引き続き維持することが必要不可欠である。